

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム グリーンビルズ	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	50 人
気候区分	4地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2015年5月28日
敷地面積	9,598 m <sup>2</sup>	作成者	関戸敏則
建築面積	1,045 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,653 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 92% (169 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 92% (169 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 92% (169 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境 (スコア: 2.7)

音環境	2.7
温熱環境	2.0
光・視環境	3.2
空気質環境	3.2

#### Q2 サービス性能 (スコア: 3.1)

機能性	2.8
耐用性	3.5
対応性	3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 3.1)

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー (スコア: 3.7)

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.2)

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境 (スコア: 3.2)

地球温暖化	3.3
地域環境	3.1
周辺環境	3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 既存の特別養護老人ホームの増築工事のため、基本的には既存部分の仕様で進めつつ、今日一般的に行われている環境配慮事項を考慮し設計をおこなった。周辺環境や既存緑地が活かされた設計となっている。		特になし
<b>Q1 室内環境</b> 共用部、居室とも大きな開口部により高い昼光率がある。庇、軒、カーテンにより昼光制御が可能となっている。建物内禁煙とし、喫煙の制御がおこなわれている。	<b>Q2 サービス性能</b> 個室10m <sup>2</sup> /床が確保され、広さ、収納性が確保されている。居室の天井高は2.5mとし広さを確保している。地域係数Z=1.2、用途係数I=1.25を掛け、建築基準法の50%	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 既存緑地を極力残し、工事範囲でも植栽を行い、外構緑化指数35.24%を確保した。散策路によりアメニティ向上がある。建物形状により中庭等の中間領域が形成されている。
<b>LR1 エネルギー</b> 標準的な仕様とし、建物外皮の熱負荷抑制はレベル4の評価を満たした。設備システムの高効率化はレベル4の評価をみたした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器の採用を行った。部材の再利用可能性向上が軽鋼製下地の採用により可能である。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地表面対策面積比率を64.43%確保した。駐輪スペース、駐車スペースの確保、荷さばきスペースの確保等により、周辺交通環境の悪化を防いでいる。光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される